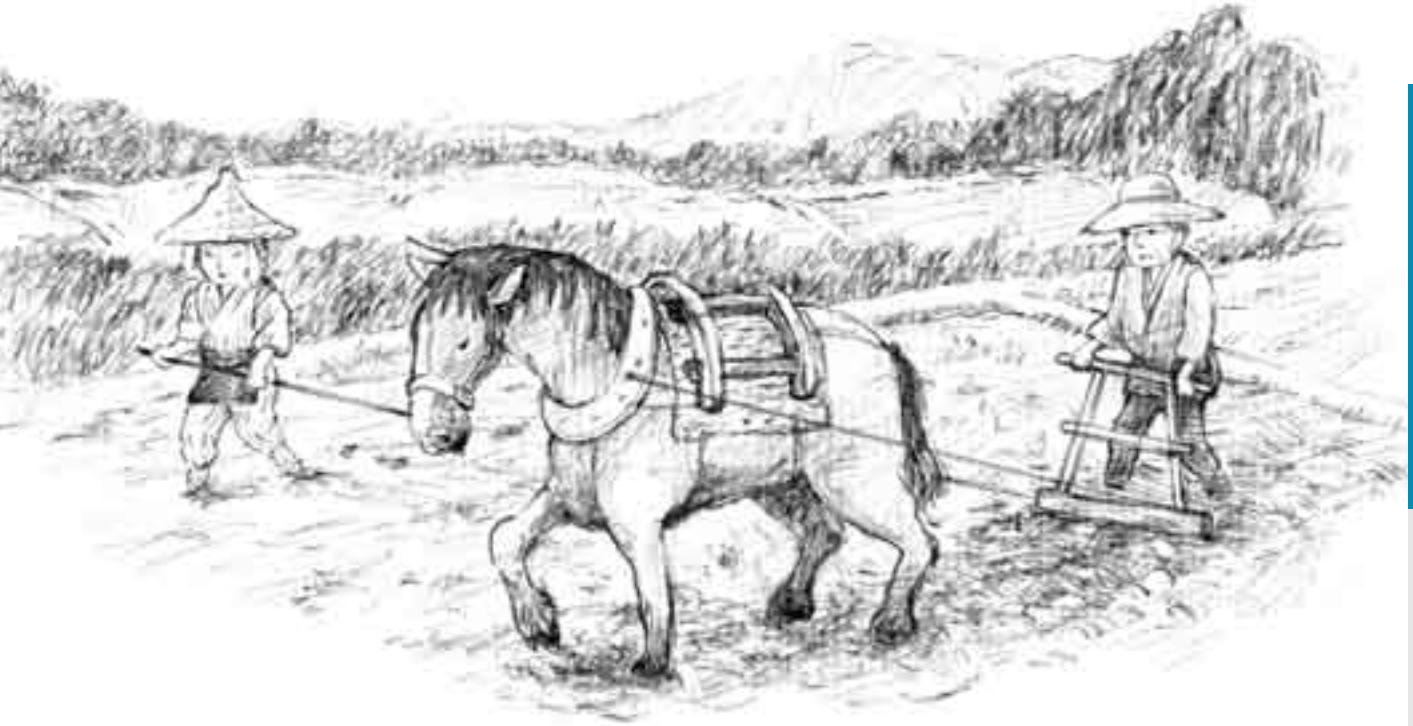
このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあった蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。



田起こし

文　蛭田光城
絵　野上和彦

八十二歳のおじいさんのお話です。

「昔は、田うない万能といって、穂先の長い万能があったんだ。それで田んぼの土を、一つ一つ掘り返していったんだよ。稲株の根が張っているので、本当に骨が折れたなあ。」

「ずいぶんおなかがすくんでしょうね。」

「うん。仕事の強い人は、一升飯といって、ご飯だけで一日に一升(白米約一・八リットル)も食べたもんだよ。弁当は重箱へつめて行くんだがね、ご飯をギュウギュウつめこむから、真ん中へ箸を突きさすと、重箱が持ち上がるくらいだったんだ。」

「それで、どのくらいうなうんですか。」

「そうよな。強い人で一反歩(約十アール)を一日とちょっとかかっただろうな。刈ったあとの稲の株を下向きしにて、腐らせるようにていねいにうなうからな。」

「ていねいにやったから、これで田植えができるの?」

「そうはいかないよ。これは株田起こしといって、第一回目さ。大体稲には、わせ、なかで、おくてと三種類あってね。田植えが一度にかさならないように、時期をずらしてあるんだ。そこで稲刈りは十月から十一月になるんだ。だから脱穀したもみを干しながら、田うないをするんだよ。そんなわけで、株田起こしが遅れて、霜の降るころ、薄氷を割りながら、うなったこともあったよ。」

「ずいぶん苦労が多かったんだね。」

「うん。あのころはな。飯はうんと食べても、おかずはたくあんと野菜の煮物だったからな。その後、昭和十年ごろになると、馬や牛を使って馬耕牛耕をするようになり、手間が省けたんだ。こうして田植えまでは、二回、三回とうなったもんだったよ。」

編集後記

18日に小学校を卒業するわが家の長男が、最近学習塾の中学準備講座に通い始めました。それで改めて眺めると、JR成田駅西口付近には小中学生を対象にした学習塾が数多く並んでいることに気が付きます。塾の終わりが結構遅い時間になるのが親としては心配ですが、4月からの「えきばん」で、より安心な「成田」そして「駅前」になってくれるよう願っています。

JAB EMS Accreditation RE001　KHK ISO 14001 06ER・586

成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成20年3月15日号 No.1119　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成20年3月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 花崎町760番地　電話22-1111(大代表)
広報なりたは再生紙を使用しています。